

ちぎって貼って見せて

茨城・笠間日動美術館 「97歳セツの新聞ちぎり絵 原画展」

新聞紙でちぎり絵作品を制作する奈良県桜井市の木村セツさん(97)。その作品の原画を展示する「97歳セツの新聞ちぎり絵 原画展」が、茨城県笠間市の笠間日動美術館で開かれています。

遊び心にあふれ

90歳で新聞ちぎり絵を始めて7年目のセツさん。熱々の鍋焼きうどん、いちごジャムトースト、カラッと揚がった海老フライ…作品の大半を占めるのが食べものです。「お



自然に囲まれた笠間日動美術館

いしそー」と感じた瞬間のワクワク感、温度や

匂いまでよみがえるかのよう。最新作を含むほぼ全点、約180点の原画がずらりと並ぶ関東初の大規模展です。

作品はハガキ大の小さなサイズ。絶妙な色使い、質感を出すちぎり方・貼り方の緻密さに驚かされます。皮のザクザク感を出したタケノコは、よく見るとライブ会場で盛り上がる人々の写真が。新聞の活字や写真が思わぬところに入り込みます。こだわりの朝食に欠かせないパンや牛乳はパッケージごと描かれるなど、「そっくり」なのに「エッ?」と思わせる遊び心があり、いつまでも見ていられます。

初めて夢中になった

セツさんがちぎり絵を始めたのは2018年。夫を亡くし、落ち込んでいたのを見かねた娘の勧めでした。孫がSNSに作品を投稿したところ、観察眼や作品の表現力が注目さ

れ、作品集の出版につながりました。「趣味はなんもなかった。食べるのが趣味でした。もうずっと働いていました。よう働きました」「90歳セツの新聞ちぎり絵」(里山社)というセツさん。3人の子どもを育てながら、養鶏、喫茶店、農業など働き詰めでした。やり始めたら、飲み物が冷めても気づかないほど夢中になり、日々コツコツと制作しています。

作品のそばにセツさんの言葉が添えられています。シャインマスカット(2025)に「だいぶとおいしいもんですね。粒も大きいし、これはふだんよう買いません。つくるために買いました」。真鯛(2020)には「鯛



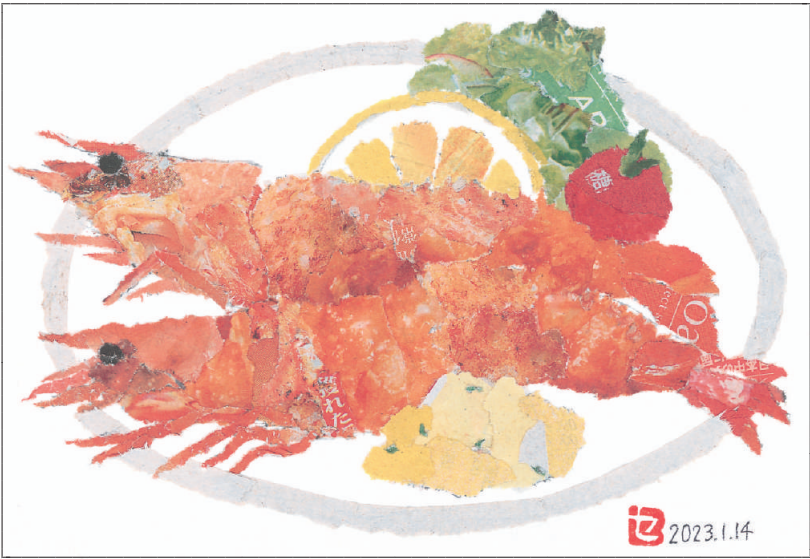
「いたずら猫のフクちゃん」2022年 ©Setsu Kimura

のころは肉の霜降りの白いところ貼りましてん」など、率直な人となりが伝わり、あたいたかい気持ちに。ちぎり絵ができるまでを記録した映像が会場で流れ、色ごとにつくったストックから選

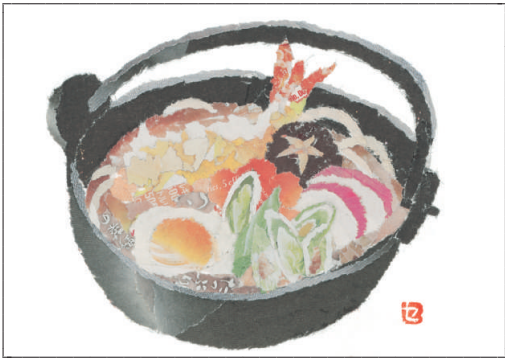
び、下絵にピンセットとのりで張っていく真剣さに圧倒されます。なだらかな丘陵地にある美術館は、企画展示館、フランス館、日本館、緑豊かな野外彫刻庭園を設置。ゆったりした時間のなかで作品と向きあうことができ、分館に北大路魯山人旧居「春風萬里荘」があります。市内は観光周遊バスやレンタル自転車があり、手打ちそばや笠間焼のギャラリー巡りも楽しめます。



竹林の渡り廊下を抜けると野外彫刻庭園が



「エビフライランチ」2023年 ©Setsu Kimura



「鍋焼きうどん」2025年 ©Setsu Kimura



「カタツムリ」2019年 ©Setsu Kimura

◆97歳セツの新聞ちぎり絵 原画展 会期：～7月20日(月・祝) / 月曜休館(祝日は開館、翌日休館) / 入館料=大人1300円など / 問合せ=同美術館 (0296-72-2160)

編集部から

1面取材で杉並区の人々に話を聞いた。悩みつつ岸本区長と本気だ。私の住む街でも今年、選挙がある。よりよい街になるため、私は何が出来るか考えよう。(晃)



アジサイの9条ブローチ

京都市 永口京子

伏見支部のエコクラフトサークルで「憲法9条を守ろう」と、作って広めています。



(☆風景、人物、動植物、9条グッズの写真をお寄せください。Eメールでも可)



め薄切り、セロリは筋を取り斜め薄切りにする。ザーサイは細切り、ワカメは食べやすい大きさに切って全てをボウルに入れる。

③①の鶏肉の粗熱が取れたら、1.5割幅に切ってフライパンに残ったたれごと②に加え、酢とコショウも加えて全体に大きく混ぜる。

■1人分244kcal、塩分1.9g

<月1回>

旬レシピ

照り焼きチキンとキュウリのサラダ

管理栄養士・料理家 金丸絵里加